

氏名	奥 村 武 弘
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3639号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Intrapulmonary metastasis of non-small cell lung cancer.A prognostic assessment (非小細胞肺癌肺内転移の予後的検討)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 谷本 光音 教授 平木 祥夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

〔背景〕 最新の肺癌 TNM 分類では、原発巣と同一葉内の肺内転移 (PMs) は T4, 他葉内の肺内転移 (PMd) は M1 に分類している。

〔目的〕 肺内転移を伴う非小細胞肺癌の切除予後を分析し、TNM 分類の妥当性を検討する。

〔対象と方法〕 完全切除が行われた 1,534 例の非小細胞肺癌を対象に予後を検討した。肺内転移を認めなかった症例 (PM0) は 1,393 例、PMs 症例が 105 例、PMd 症例が 18 例であった。また 肺内転移以外で T4 と分類された症例 (PM0T4) は 54 例で、肺以外の遠隔転移を認めた症例 (distant M1) は 18 例であった。

〔結果〕 5 年生存率はそれぞれ 60% (PM0), 34% (PM0T4), 34% (PMs), 11% (PMd), 6% (distant M1) であった。PMs は PM0 より有意に予後不良で ($P < 0.0001$, log-rank test), distant M1 より有意に予後良好であった ($P < 0.0001$)。また PMs と PM0T4, PMd と distant M1 の予後には有意差を認めなかった。

〔結論〕 切除後の予後は PM0, PM0T4, PMs, PMd, distant M1 の順に不良であった。PMs は T4 と、PMd は M1 と同等の予後を示した。改訂 TNM 分類は切除後の予後に関して妥当と考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、肺内転移を伴う非小細胞肺癌の切除予後を分析し、TNM 分類の妥当性を検討したものである。完全切除が行われた 1,534 例の非小細胞肺癌のうち、肺内転移を認めなかった症例 (PM0) は 1,393 例、原発巣と同一葉内の肺内転移 PMs 症例が 105 例、他葉内の肺内転移 PMd 症例が 18 例であった。また肺内転移以外で T4 と分類された症例 (PM0T4) は 54 例で、肺以外の遠隔転移を認めた症例 (distant M1) は 18 例であった。5 年生存率は PM0 60%、PM0T4 34%、PMs 34%、PMd 11%、distant M1 6% で、PMs は PM0 より予後不良で ($P < 0.0001$, log-rank test), distant M1 より有意に予後良好であった ($P < 0.0001$)。この結果は 1997 年改訂の TNM 分類は切除後の予後に関して妥当であることを国内の成績で裏付けたもので、本研究は臨床的に価値ある業績と考えられる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。